

# とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年11月27日

## 1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・0歳児「秋の自然にふれる」

<テーマ設定理由>

4月から散歩に出掛けて自然に触れることを楽しんできました。近隣の広場や霊園は落葉して足元にはふかふかの絨毯のように落ち葉が積もっています。また、どんぐりやまつぼっくりもたくさん見つけることができます。今回は自然に触れる機会を作り、自然に触れる中での探究活動をしました。

## 2. 活動スケジュール

11月から、園庭や近隣の公園の自然に触れる遊びを週に1～2回は繰り返してきました。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- どんぐりやまつぼっくりを入れるビニール袋

## 4. 探究活動の実践

<活動内容>

4名が朝のおやつを食べる。その後戸外に出る準備をして、小平霊園まで散歩に出掛ける。行きは4名カートに乗って行く。小平霊園内では入口のすぐ近くの車道横に落ち葉がたくさん溜まっている場所があり、そこを踏んだり落ち葉を投げたりして遊ぶ。落ち葉の踏んだ時の感触や、触ったときの感触が面白かったようで、ぐるぐると歩き回る姿がある。途中水分補給をし、入口近くまで移動する。そこできく組が秋の自然の探究をしており、一緒に参加させてもらう。まつぼっくりを見つけるとまつきく組の袋に入れる子どももいる。10:35に霊園内を出発し、2名はバギー、2名は歩きで帰る。10:45頃に園着。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

- 落ち葉を踏みしめる音が足元から聞こえてくると、自分の足元を見つめている。
- 落ち葉のふんわりとした感触を感じたのか座り込んで、身の回りの落ち葉を手にとっている。
- どんぐりを見つけて探している。ビニール袋を持ち歩いて見つけては袋の中に入れていた子どもがいる。
- どんぐりが落ち葉の下に隠されていることが分かる子どもがいて、落ち葉を掻きわけてどんぐりを見つけていた。
- 保育士が見つけたワラジムシを保育士の掌に載せて見せたところ、目にした途端直ぐに目を背ける子ども、もっと見ようと掌を見つめ、触ろうとする子ども、両手をばたばたとさせて喜ぶ仕草を見せる子どもなど様々だった。
- 掌の虫を見つめて触ろうとしていた子どもは、虫が掌から落ちると落ちた場所を目で追い、探すような仕草をした。
- 枯れた葉が付いた枝を見つけて手に取って、箒のように落ち葉を掃く仕草を見せる子どもがいた。
- まつぼっくりを見つけて袋に入れろ子どもがいた。
- 左手にどんぐりをつまみ、落ち葉の下から探したどんぐりを右手でつまんで両手で持っている子どもがいた。どんぐり拾いの中で器用に両手や指先を使ってどんぐりを持っている。



## 4. 振り返り <振り返りによって得た先生の気づき>

- 子どもたちは、落ち葉やどんぐり、虫とのかかわりを通して、五感を働かせながら自分で環境を探り、身体や心を大きく働かせている姿が見られます。
- 落ち葉の音や柔らかさを感じて立ち止まったり座り込んだりする姿から、「音がする」「ふわふわしている」など、感覚の違いに気づき始めていることが分かる。
- 落ち葉の下からどんぐりを探したり、虫が掌から落ちた場所を目で追う姿は、「見えないところにも何かがある」「動くもの（虫）がどこにいったのかな」といった興味の広がりが見られる。
- どんぐりを両手でつまんだり、ビニール袋に入れたり、松ぼっくりを拾ったりする姿から、指先が発達していることが分かる。自然物はその発達を支えるよい素材だと思う。
- 枝を箒に見立てて掃く、落ち葉を掻き分けるといった動きがどうして生まれたのか興味を持った。
- ワラジムシを見て目をそらす子、興味深く見つめて触ろうとする子、喜んで手をばたつかせる子など、感じ方や受け止め方が大きく異なる。
- 生き物への反応の違いは、経験の有無だけでなく、そのときの安心感にも影響されるため、一人ひとりの表情や距離感をよく見ながら、無理強いわせず「見ているだけ」「少し離れて見る」などの関わり方がある。
- 落ち葉を集めて袋に入れる、どんぐりや松ぼっくりを集めるなどの行為は、自発的な探究心の芽生えとを感じる。
- 枝を箒に見立てて掃く、落ち葉の下を探るといった「見立て遊び」や「試してみる行動」は、遊び方が豊かに変化していると感じた。
- このような姿から、自然物に自由に触れられる安全な環境を整えつつ、子どもの視線の先や手の動きを丁寧に言葉にして返すことで、感覚の経験が言葉や意味と結びついていくよう支えていく必要がある。
- 子どもが拾ったものや感じたことを大人や友だちと共有できるよう、「どんな音がした?」「どこに落ちていた?」など対話を意識することで、五領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）それぞれの育ちにつながる活動である。